

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	静岡県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	沼津市立門池小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	合計	教員数
学級数	4	4	4	4	4	4	0	24	31
児童数	138	139	152	155	128	143	0	855	

研究の概要

1. 研究主題

**学ぶ喜びを感じ、いきいきと学習する子**

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1・2年生(国語・算数)

児童の発達段階や学級への帰属意識の強さを考慮し、学級内TTを基本に進める。ただし、教材の内容やねらいから、習熟の差を最小限にするため、見通しの持てない児童や習熟に時間を要する児童を集めて学級内少人数を実施し、基礎的計算力や書き言葉、文字表現の習熟を保証する。

3・4年生(国語・算数)

中学年は習熟の差が大きくなることや高学年に向けての学習の基礎になることから、少人数担当教師を1名ずつ配置し、コース別学習が児童の実態や教材の内容、ねらいに即して実施できる体制を整えた。

5・6年生(国語・算数)

高学年では、授業における教師の専門性を生かし、より質の高い授業を提供することや複数教員による学年指導体制をとる目的で、国語・算数の教科担任制を実施している。

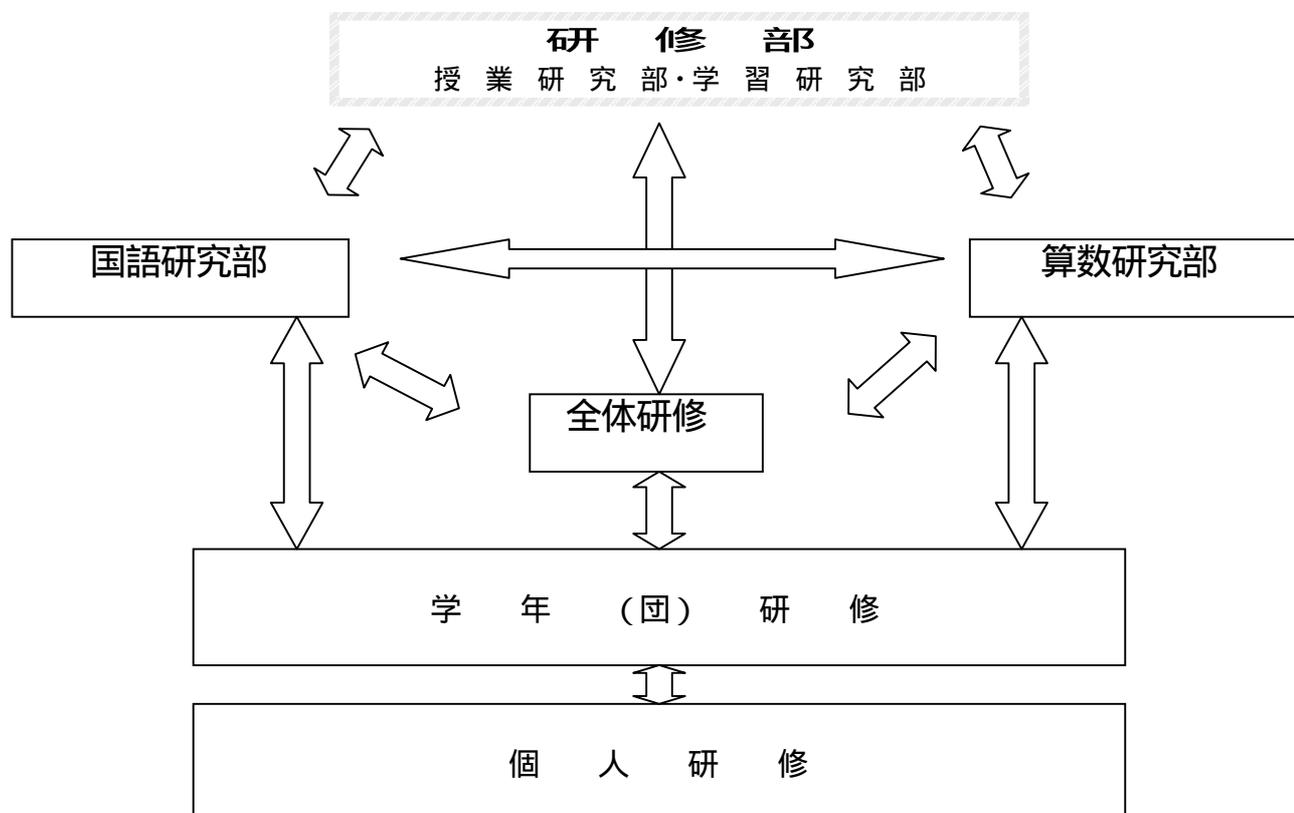
(2) 年次計画

平成14年度	テーマ 「学ぶ喜びを感じ、いきいきと学習する子」 - からだで学ぶ - 仮説 音読や漢字・計算等の基礎的・基本的な学習を「からだ」を通して学び、国語と算数で少人数指導を軸としたきめ細かい指導を行えば、学ぶ喜びを感じ、いきいきと学習する子が育つであろう。
	研究内容・方法 ・本校としての学力観の確立 ・学力実態調査をもとにした本校児童の学力実態の把握 ・国語科と算数科において、少人数指導の実践と資料の蓄積 ・国語科、算数科の年間指導計画作成(指導の工夫、評価規準の入ったもの) ・ホームページを利用した研究の発信

平成15年度	テーマ 「学ぶ喜びを感じ、いきいきと学習する子」 仮説 子どもの問いや思いを軸とした授業づくりをしていくことによって、確かな学力が身につく、学ぶ喜びを感じ、いきいきと学習する子が育つであろう。
	研究内容・方法 ・国語科と算数科の研究体制の確立 ・少人数指導体制の研究、教科担任制の実施 ・単元構想の工夫 ・補充、発展教材の開発 ・評価実践の積み上げ ・中間研究発表会の実施 ・ホームページによる研究の発信

平成 16 年 度	テーマ 「学ぶ喜びを感じ、いきいきと学習する子」
	仮説 子どもの問いや思いを軸とした授業づくりをさらに進め、指導と評価の一体化を重点に子どもの学習状況にきめ細かく対応していくことによって、確かな学力が身につけ、学ぶ喜びを感じ、いきいきと学習する子が育つであろう。 研究内容・方法 ・ 国語科と算数科の研究体制の確立 ・ 少人数指導体制の研究、教科担任制の実施 ・ 指導と評価の一体化を重点とした授業構想 ・ 補充、発展教材の開発 ・ 研究発表会の実施 ・ 研究成果、課題の発信 ・ ホームページによる研究の発信

(3) 研修推進体制



平成15年度の研究成果および今後の課題

(1) 研究成果

- ・ 確かな学力を育む授業づくりの視点として「子供の問いや思いを軸にした授業づくり」を掲げ、授業実践を行ったことにより教師や子供の授業に対する構えが変わり、子供が主体的に学ぶ姿がみられた。
- ・ 「子供の問いや思いを軸にした授業づくり」を目指して単元構成や学習素材を工夫したことで子供の『学ぶ喜びや意欲』を引き出すことができた。
- ・ 多様な考えの交流を重視し、活動的で協同的な学びを組織することにより、仲間とかかわりあう喜びを感じる子供が多くなってきた。
- ・ 子供の学習状況を的確につかみ、きめ細かく授業を構想することで柔軟な指導体制を工夫することができた。また、学習の状況に応じた教材の開発を行うことができた。
- ・ 授業のねらいを明確にし、そのねらいに準拠した評価規準を設定することにより子供の変容を捉えることができた。また、ふり返りカードや子供同士の相互評価を取り入れ、子供の自己評価能力の育成を図ることができた。これらの評価の積み上げにより子供の学力の向上を確認することができた。

## (2) 今後の課題

### (1) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材開発について

新学習指導要領と旧学習指導要領を比べ、削られた部分に着目して理解力、思考力をより高める発展教材を開発していきたい。また、補充が必要な子供に対して、単なる繰り返しではなく「仮に補充であっても子供の問いや思いを大切にされた発展性のある」教材を開発していきたい。

### (2) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善について

少人数指導の効果的な活用を図る研究を一層推進したい。また、高学年の教科担任制を教科や単元に応じて弾力的にできるよう、研究を深めたい。

### (3) 児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善について

子供のあらわれを評価する方策を一層研修し、さらに学力を質的に捉える方策について研究を深めたい。

## 学力実態把握のための学校としての取り組み

### 学力実態調査

- ・ 実施教科と実施時期  
国語・算数（4月・2月の年間2回）
- ・ 内容  
国語科  
前学年の漢字（読み・書き） 聴写 視写  
算数科  
前年度の学習した「数と計算」領域の内容
- ・ 事後  
採点后、各担任が解答用紙をファイルし、個のあらわれを一覧表に記録する。  
学年で実態や傾向、考察等をまとめる。

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成15年11月20日（木）「学力向上フロンティアスクール中間研究発表会」開催  
・ 全学年授業公開 ・ 全体会（研究発表・指導主事講話）  
平成16年10月29日（金）「研究発表会」開催予定  
ホームページによる研究成果の公開  
([www.int.numazu-szo.ed.jp/kadoike-e/](http://www.int.numazu-szo.ed.jp/kadoike-e/))

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること（複数チェック可）

- |                      |            |              |      |    |
|----------------------|------------|--------------|------|----|
| 【新規校・継続校】            | 15年度からの新規校 | ✓ 14年度からの継続校 |      |    |
| 【学校規模】               | 6学級以下      | 7～12学級       |      |    |
|                      | 13～18学級    | ✓ 19～24学級    |      |    |
|                      | 25学級以上     |              |      |    |
| 【指導体制】               | ✓ 少人数指導    | ✓ TTによる指導    |      |    |
|                      | ✓ 一部教科担任制  | その他          |      |    |
| 【研究教科】               | ✓ 国語       | ✓ 算数         | 社会   | 理科 |
|                      | 生活         | 音楽           | 図画工作 | 家庭 |
|                      | 体育         | その他          |      |    |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | ✓ 有        | 無            |      |    |